



2024年度 第4号

8月26日(月)

発行:名寄高校進路指導部

文責:森崎 正喜

志望理由書の書き方

～メジャーリーガー イチローから学ぶ～

イチローや本田圭佑、石川 遼らが小学生の時に書いた作文が凄いというのは有名な話です。その中でも個人的にイチローが小学校6年生の時に書いた「夢」というタイトルの作文が特に凄いと思います。彼の凄いところは「プロ野球選手になる!」という明確な目標を持ち、そのために何が必要かを理解し、それを確実に実行し、実現しているところです。全文はこちら。みんなが小学生の時に書いた作文と見比べてみましょう。

「夢」

僕の夢は、一流のプロ野球選手になることです。そのためには、中学・高校と全国大会に出て、活躍しなければなりません。活躍できるようになるには、練習が必要です。ぼくは、その練習にはじしんがあります。ぼくは、3歳の時から練習を始めています。3歳から7歳までは半年ぐらやっていましたが、3年生の時から今までは、365日中、360日は、はげしい練習をやっています。だから、一週間で友達と遊べる時間は、5～6時間の間です。そんなに練習をやっているんだから、必ずプロ野球の選手になれると思います。そして、中学・高校でも活躍して高校を卒業してからプロに入団するつもりです。そして、その球団は、中日ドラゴンズか西武ライオンズが夢です。ドラフト入団で、けいやく金は1億円以上が目標です。ぼくがじしんがあるのは、投手と打げきです。去年の夏、ぼくたちは全国大会に行きました。そして、ほとんどの投手を見てきましたが、自分が大会No.1投手とかくしんできるほどです。打げきでは、県大会4試合のうち、ホームランを3本打ちました。そして、全体を通した打りつは、5割8分3りんでした。このように、自分でもなっとくのいくせいせきでした。そして、ぼくたちは、1年間負けしらずで野球ができました。だから、このちょうしでこれからもがんばります。そして、ぼくが一流の選手になって試合に出れるようになったら、お世話になった人に、招待券をくばって、おうえんしてもらおうのも夢の一つです。とにかく、一番大きな夢は、プロ野球の選手になることです。

イチローの作文の凄いところは、ただ大きな目標を掲げていることではなく、目標達成のために何をすべきかが、きわめて具体的に書かれている点です。練習をしっかりとこなすのは、数日なら誰でもできることです。しかしイチローは365日中360日ずっと継続し

て練習を続けていたのです。成果を出す人とそうでない人との違いは、誰でも当たり前のことの積み重ねにあるのだと思います。自らの夢に対して代償を進んで払おうとする気持ちがこの作文を通じて強く感じられます。「夢を見ることは重荷を背負うことだ」と松下幸之助氏は言ったそうですが、まさにそのことをすでに体感している感があり、また最後にはお世話になった人に対して報いるという感謝の気持ちも忘れていないところに彼の凄さを感じます。

合格できる志望理由書とは

「志望理由書」とは、その名の通り「進学したい学校（企業）を志望する理由を書いたもの」です。総合型選抜、学校推薦型選抜では、面接同様に課されるものです。今回必要なくても、いずれは就職試験で志望理由書を書かなければならない時があるかもしれませんので、今回志望理由書が必要ない皆さんにとっても他人事ではありません。

それではどんな志望理由書が評価されるのでしょうか。評価の高い志望理由書は「その人らしい魅力のある個性的なもの」「少しぐらい荒削りでもオリジナリティのあるもの」です。これは、面接試験にも通じます。

■評価される4つのポイント■

- ①自分の経験を踏まえる
- ②志望大学や企業の特徴やアドミッションポリシーをおさえる
- ③大学や企業で自分がやりたいことを明確にする
- ④大学卒業後や入社後に目指すことを明らかにする

②のアドミッションポリシーを熟読し、自分がそのポリシーにどのように当てはまっているか、自己分析することが大切です。これが自己PRにつながるのですが、「自分の強みや、高校時代体験したことなどを、大学生活や将来にどのように活かせるのか」をアドミッションポリシーと絡めて伝えることができれば好印象を与えるでしょう。

編集 後記

私は、毎日国語科の梅澤先生のコラムを読むのを密かに楽しみにしている。クスッと笑えたり、「なるほど」と感心したり、彼の文才には頭が下がる思いだ。そんなある日のコラム「梅澤先生のつぶやき」を紹介しよう。

林 修先生の番組に Ado さんがインタビュー出演していました。Ado というネーミングの由来が好きで応援しています。インタビューの中で「普通・当たり前を選択しなくていいんだ」という言葉がありました。実に共感！私自身も「普通は・・・」なんて言葉を吐いていましたが、そもそも普通とはただ割合・数が多いということであって、それが正しいとは誰も証明していないことがほとんど。むしろ、普通でないことをする人がいるからこそ、その正しさや間違いがはっきりしてくるのではないのでしょうか？「グラミー賞をとる」という目標を宣言した Ado はおじさんからみてもかっこいい。うちの小1の娘が幼稚園の時に「うっせえわ」を歌い出した時には、どうしようかと思いましたが。